

(熊本県立水俣高等学校(定時制)) 学校 令和7年度(2025年度)学校評価計画表

<p>1 学校教育目標</p> <p>スクール・ミッション、スクール・ポリシーを踏まえ、校訓「自律 敬愛 創造」のもと、互いを認め、励まし、個性を高めあう教育を推進し、知・徳・体の調和がとれ、自ら考え、学び、夢に向かって主体的に行動する力を備えた人材の育成をめざす。</p> <p>そのため、全教職員は一体となり、教育者としての使命感と愛情を持って、家庭・地域社会との連携を深めながら、魅力ある学校づくりに努め、本校教育の充実・発展を図る。</p>
--

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>(1) 健全な心身の育成</p> <p>ア 基本的な生活習慣の確立と社会規範の醸成を図る。</p> <p>イ 自主・自律の精神を涵養する。</p> <p>ウ 情報モラル教育の充実に努め、情報化社会で生きる力を育成する。</p> <p>エ 他者を思いやり、命や人権を尊重する豊かな心を育成する。</p> <p>オ 学校行事等の取組をとおして、帰属意識、協調性、自己肯定感等を高める。</p> <p>(2) 学力の向上と進路指導の充実</p> <p>ア 授業の充実に努め「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。</p> <p>イ 基礎学力の定着と「わかる授業」の実践に努め、学習意欲の向上を図る。</p> <p>ウ ICTを活用した教育の情報化を推進し、探究的な学びの充実に努める。</p> <p>エ キャリア教育を充実させ、将来の目標設定と進路意識の高揚を図る。</p> <p>オ 個々の能力・適性・進路目標に応じた個別最適な学びを実践し、きめ細やかな指導に努める。</p> <p>(3) 保護者や地域社会の期待に応える定時制教育の充実</p> <p>ア 生徒に水俣高校定時制で学ぶことへの自覚と誇りを持たせ、郷土を理解し愛する心を涵養する。</p> <p>イ 情報発信と開かれた学校づくりに努め、本校教育への理解と信頼を高める。</p> <p>ウ 商品開発の取組等、地域社会と連携した取組をとおして探究する力を育み、社会の一員としての自覚を高め、視野を広げる。</p> <p>エ 保護者との情報共有を図り、信頼関係に基づいた教育活動に努める。</p> <p>オ 学校運営協議会を活用し、地域との連携を強化した学校運営を図る。</p>
--

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	目標管理による学校運営の推進	学校教育目標と重点目標の理解	全職員が学校教育目標を理解し、重点目標の実現に向けた教育活動に取り組んでいる。学校評価アンケートの「教育方針をわかりやすく伝え教育活動に取り組んでいる」の項目で、9割以上の肯定的評価を得る。	職員会議及び面談等を通して学校教育目標を明示し、各個人の年間目標に反映させる。教育活動及び業務全般において、学校教育目標に沿ったものとなっているか、その達成度等について評価を行い、改善につなげるPDCAサイクルを回す。	A	昨年度の92%から8ポイント上昇し、教職員全員(100%)が肯定的に回答した。これにより、本年度の重点目標を完全に達成し、組織一丸となった教育活動の基盤が確立された。
	安全で安心して学習できる教育環境づくりの推	安全点検および防災教育の徹底	事故防止のための安全管理を定期的に実施する。防災意識を高め、自発的・能動的に自分の命を守る行動がで	教室及び施設等の安全点検を各学期に実施する。年度当初に避難経路を確認させ、2学期に地元消防署の指導で防災訓練等を実施する。マイタイムラインを	A	日常点検は全職員、定期点検は各学期担当者が行った。修理箇所等の対応は事務部に依頼し、改善された。 1学期に防災士の数人が本校に来てもらい生徒職員に

	進		きる。	使用した防災教育を実施する。		対して水俣地区の防災教育及びマイタイムラインの作成の実践を行った。2学期には水俣消防署を訪問し、心臓マッサージ等の実践指導を受けた。
		保健衛生指導の充実	新興感染症への理解度を高める。感染リスクを自ら判断し適切な行動ができる。	始業前の健康観察により生徒の健康状態を把握する。感染源・感染経路に関する指導等を行う。	A	ICT(タブレット)を活用して毎日健康観察を行い、健康状態を把握した。また、全ての普通教室にサーキュレーターを設置し、定期的に教室の換気を実施しながら、学校内での感染拡大を防止した。9割の生徒がマスクを着用しており、感染リスクを自ら判断した適切な行動ができています。
	生徒理解の推進	生徒の課題や指導の共有化と一人一人の居場所がある学校づくり	個別・最適な指導により学ぶ意欲を喚起させ、自己発見、自己実現を支援する。特別な配慮が必要な生徒への組織的な支援体制を整える。生徒・保護者と信頼関係を築きながら登校を促し、中途退学者・長欠者を減少させる。	個別の面談等を通して生徒理解を深め、連絡会等で共通理解を図り、全職員で支援する体制を構築する。生徒理解研修会を年に5回程度実施して情報共有を図る。関係機関と連携しながら合理的な配慮や個に応じた指導を行う。	B	始業時の職員連絡会や生徒理解研修を通して、各職員が把握した情報を全員で共有して支援にあたることで、生徒の状況に応じた合理的配慮を実施できた。必要に応じて行政や外部の専門機関等と情報を共有し、学校内にとどまらない支援体制を整えることができた。欠席日数が心配な生徒は数名見られるものの、本年度の中途退学者は0である。
	業務改善	業務改善の推進	従来の業務について効率化できないかを常に見直す。業務遂行における時間削減及びペーパーレス化を推進する。	ICTを活用した効率化が見込める業務を洗い出し、セキュリティに留意しながら積極的な変更を推奨する。	A	授業および校務の多角的な分野においてICT活用を定着させ、ペーパーレス化をはじめとする業務効率化を大きく進展させた。研修への積極的な参加が実務に直結し、組織全体のデジタル化が加速している。今後は、この流れを一時的なものとなせず、既存の慣習にとられない抜本的な業務の見直しをさらに深化させていく。
	働き方改革	時間外勤務時間の削減	働き方改革の意識を浸透させ、職員の心身の健康を増進する。	定時退勤を呼びかけ、年休の取得を奨励する。業務の偏りを平準化する。	A	学校評価アンケートでは92%の職員が業務見直しや時間削減に「肯定的」と回答し、組織的な取り組みが浸透している。実態としても、12月までの月平均時間外勤務時間は、昨年度の19:14から16:27へと大幅に減少(前年比約15%減)した。
学力向上	授業力の向上	公開授業・授業評価の実施・ICTの効果的活用	公開授業・研究授業を通して授業力の向上を目指す。また、ICTを積極的に活用するため、校内外の研修を実施し、一人一台に対応できる授業づくりを進め、主体的な生徒	教務部が企画・立案し、全教科で取り組む。ICT活用に関する研修を適宜行い、職員の研修の機会を確保する。授業評価の結果を早期に分析し、授業改善に努める。また新課程において求める力を具現化した評価を行う。	B	公開授業・研究授業については実施ができなかったが、全日制及び各校の公開授業への参加を呼びかけた。ICT活用については、前年度より取組が進み、生徒も一人一台の端末の使用も増え、使いこなせるようになっている。

			の学びを引き出す。			
	基礎学力の向上	基礎国語など、学校設定科目や基礎科目の充実	学校設定科目や基礎科目で中学校の学び直しを行い、基礎学力の向上を図る。1年生の授業においてT・Tを有効に行う。	教務部が企画・立案し、当該年次、当該教科で取り組む。教師の授業力を高め、生徒のやる気を引き出し、主体的な学習を促す。	A	各科目で基礎学力の向上へ向けて手厚い指導がなされ、成績面でも厳しい評価がつく生徒はいなかった。1年生のT・Tでは、年度を通じて実施された科目もあり、基礎学力の向上に貢献している。
キャリア教育(進路指導)	個に応じた進路指導の推進	生徒個人の進路目標の明確化と卒業予定者の進路決定と在校生の就労率の向上	卒業予定者の進路保障と在校生の就労率を50%まで高める。商業関係の検定受験を勧める。	卒業予定者の保護者と進路面談を実施する。進路指導部と各担任との連携を深める。商業関係の検定前学習を1週間程度実施する。	B	卒業予定者との面談は夏季休業時に実施済みである。在校生の就労率は40%である。商業関係の検定の受験にやや、消極的である。検定に対する、課外は良好である。
	進路意識の高揚	キャリアパスポートの活用や進路関係行事の実施	キャリアパスポートを活用しながら各担任と連携して進路セミナーや進路関係行事等を年度2回程度実施する。	関係行事等は進路指導部が立案し、外部関係機関と連携を密にして全職員で取り組む。	B	キャリアパスポートに対しては、5年目を迎え、学期ごとに記入することは定着している。進路関係行事は実習や自己分析を中心に充実している。
生徒指導	社会性の向上	登下校時における交通ルール遵守等の規範意識の向上	交通安全教室の実施及び交通安全について日々啓発することにより、規範意識を向上し、交通事故を防止する。	年1回交通安全教室を実施し登下校指導、ホームルーム活動において交通安全の啓発活動の内容を充実させる。	A	今年度も水俣自動車学校様に協力をいただき交通安全教室を実施することができた。ヘルメット着用に必要なことやキックボードの危険性など具体的課題も学ぶことができた。
		挨拶、マナー、時間厳守等の基本的生活習慣の確立	挨拶の励行によって気持ちの良い学校生活を送れるようにする。情報モラル教育を実施し、SNS等でのトラブルを防止する。	学校生活の様々な場面で生徒間、職員間で挨拶をするように指導する。年1回情報モラル教育の講演会等を実施する。	B	挨拶の励行を生徒たちに話し職員室への入退室の仕方も確立して指導した。SNSでのトラブルについて夏季休業の前に講演を実施した。実際起こっているトラブルや犯罪まで身近な問題として学ぶことができた。
	健康教育の推進	薬物乱用防止の徹底	講演会や、教科「保健」において、薬物の根絶を目指した内容を取り扱う。	外部講師を招へいし喫煙および薬物の身体や社会的影響等の内容に関する講演会を年1回実施する。	B	今年度は外部講師の都合により講演会を実施できなかったため、職員が担当し実施した。薬物乱用による自他共に関わる危険性や依存性の怖さ、若者を標的とする組織についても学んだ。
人権教育の推進	推進体制の確立と研修の充実	職員の人権意識の向上と深化を図り、生徒の人権意識の向上につなげる。	学習機会の定期的な設定による生徒、職員の人権感覚を醸成させる。	同和問題(部落差別)に対しての職員研修を実施する。人権講演会、人権LHRを実施する。各種校外研修への参加を通じて職員の人権感覚の醸成を図る。	B	出張等の資料や県からの配布物に関しては職員回覧を実施している。夏休みの研修においては、全日制と合同で、人権に関する学習をした。

	「命を大切にすることを育む指導の推進	「命」や「生きること」の考察をおとした自己肯定感と他者を思いやる心の育成。	全教職員による全ての教育活動での人権を意識した取り組みを実施する。	全ての教育活動を通じて、人権教育を推進するための職員研修を実施し、生徒の人権意識の向上に繋げる。	B	特別支援の研修はなかったが、年に数回ある生徒理解研修の中で、個々の生徒の学習への取り組みや人権教育に関する意識の向上に繋げた。
	教科指導における取り組みの推進	「分かる授業」の工夫と改善	生徒の課題やニーズに応じた学習指導の工夫をする。	教務部と連携して、「ユニバーサルデザイン」の視点を取り入れた授業を目指し、ICTを活用しながら全教科・全職員で取り組む。	B	全職員でのICT活用は定着した。今後はUDの視点をさらに深め、情報の提示（教員側）だけでなく、生徒の特性に応じた「ICTによるアウトプット（意見共有や回答のデジタル化）」の検討など、より個別最適な学びへの対応が求められる。
いじめの防止等	いじめの未然防止と事態への対応	生徒指導部及びいじめ防止対策委員会を中心とした取り組み	いじめを許さない環境をつくる。SNS等によるいじめ対策として全生徒を対象に指導を行う。また、いじめ事案が起こった場合には早期発見と早期解決を実践する。	生徒会を中心に「いじめ根絶宣言文」を作り全生徒に取り組むように指導する。スマートフォンのメリットやデメリット（危険性）を学ぶ講演会を実施する。また、LHRの時間等で「いじめ」について考えさせる。各学期にいじめ等アンケートを実施する。	A	いじめトラブルの温床となっている SNS 等について、講演会を実施し保護者等には関係資料などを配布した。今年度は、いじめ事案は発生していないが、職員が生徒と情報を共有し生徒を観ていく必要がある。
特別支援教育	生徒の得意なこと・苦手なことを把握した支援の推進	個々の生徒の得意なこと・苦手なことに応じた支援の充実	生徒の得意なこと・苦手なことを把握し、理解を深め、個々に応じた支援を推進する。生徒・保護者の教育的ニーズを把握して合理的な配慮を行う。	生徒の得意なこと・苦手なことを把握した支援の推進	B	すべての生徒に支援が必要であると感じています。生徒の得意・不得意の把握はできつつありますが、それを実際の支援に繋げる点にまだ課題を感じています。今後は、把握した特性を最大限に活かした具体的な支援を進めていきたいと考えています。
環境教育	地域と連携した環境教育の推進	「SDGs 未来都市」のための学校版環境 ISO の取り組み	学校版環境 ISO 宣言項目を徹底し、全日制と連携しながら取り組む。また、教科において循環型社会の内容を取り扱い指導する。	地域における、ごみの分別ルールに従い処理し、コンタクトレンズケース等の回収を年 6 回行い、地域活動に参加する。外部講師を招へいし、環境教育講演会を実施する。	A	地域におけるごみの分別ルールに従い 6 つのごみ箱を準備し生徒個人で分別している。コンタクトレンズケースの回収も概ね達成する。環境教育は国立水俣病総合研究センターから講演していただいた。
	学習環境の整備と推進	環境美化意識の醸成と実践力の育成	環境美化について意識して主体的に取り組むことができる生徒を育成する。	生徒、職員で毎月 1 回エコスクール・チェックシートを活用し、環境美化コンクールの得点平均を 10 点上げ、環境整備の意識を涵養する。	A	毎月 1 回エコチェックシートを活用しタブレットで回答する取り組みを実践した。目標値の得点平均は概ね達成することができた。
地域連携 (コミュニティ)	家庭・地域への定時	地域住民に対する、	学校行事の紹介を中心に定時制の教育活動につ	学校行事や商業科の販売実習における定時制の教育活動の成果を公	A	校行事を中心に文化祭、校外研修、販売実習等の様子を学校ホームページや定時

イ・スクール など)	制教育 の周知	定時制 教育に ついて の情報 発信	いて、学校ホーム ページや定時 制だよりによる 情報発信の即時 性を高め、内容 を充実させる。	開する。学校ホームペ ージを随時更新し、地 域住民に定時制の取り 組みを発信する。また 、定時制だよりを月1 回発行し、家庭に教育 活動の成果を周知する 。	制だよりを通してタイムリ ーに情報発信できた。特に 本年度は本校生徒の生活体 験発表全国大会表彰に係る テレビ取材もあり、本校生 徒の活躍を広く周知するこ とができた。
		保護者 会の開 催と学 校行事 等への 保護者 参加の 推進	保護者との連携 ・協力体制を構 築する。	P T A 総会後の保護者 懇談会で学校の指導方 針を説明する。	B P T A 総会後の保護者懇談 会で学校の指導方針につい て話す機会を持つことがで きた。今後、懇談会への参 加者数を増やしたい。定時 制文化祭においては夜間の 開催にも関わらず、多くの 保護者の参加があり、生徒 が活躍する姿を見ていただ くことができた。
		総合型 コミュニ ティ・ス クールと しての 地域と の連携 ・協力 体制の 構築	教育活動の改善 のための地域連 携体制を確立さ せる。地域と協 働した商品開発 や販売実習等を 活性化する。	これまでに地域と連携 して取り組んできた商 品開発や販売実習を軸 として、地域との連携 ・協力体制を確立する 。地域と連携した防災 教育等を実施する。	A 本校商業科の特色を生かし、 企業とコラボした商品開発 及び改善を継続的に行った。 その結果、新商品であるミニ 焼きドーナツの販売につな げることができた。さらに、 地域イベントに参加して販 売実習を実施し、地域との親 睦交流を深めた。

※評価項目の数・内容については、各学校の実態に合わせ自由に設定してください。
(複数枚になってもかまいませんが、重要度の高いものに絞り、項目を整理して記入してください。)